



## 若水をごくごく私真つ新に<sup>さら</sup>

山田真佐子

若水は元日の朝に初めて汲んで神棚に供える水。年中の邪気を払うとされる。ごくごく飲んで心身が清められたから無病息災でいられるね。



## シャッターの音も軋むや寒の入

横山洋子

俳句は詩だから感性が重要。事実がどうかよりも、どう感じたかが大事である。寒さで軋むとどんな音になるか。俳句は想像力から生まれる。



## 値札見て選る守り札初詣

百千草

神仏が値段によってご利益に差をつけるとは思えない。しかし、少しでも割安で効き目のあるものを選びたいというのが人情である。



## 懐の深さに甘え春の猫

柳 紅生

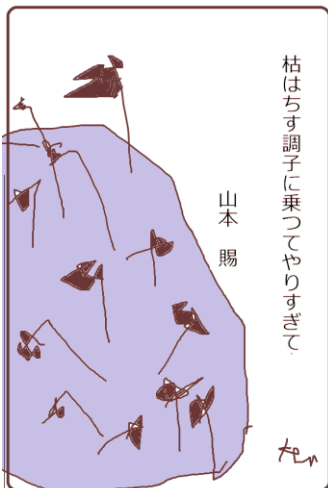
「懐が深い」とは心が広いとか包容力のあることをさすが、腕と胸のつくる空間のことをもいう。安心しきった猫の表情やしぐさが見えてくる。



## 怪獣になつたつもりへお年玉

和田のり子

怪獣ごっこをしている孫にお年玉。孫は怪獣になりきって吠えながらポチ袋を口で受けたか。お婆ちゃんは手を咬まれそうになったか。



## 枯はちす調子に乗つてやりすぎて

山本 賜

蓮の枯れた様子は無惨、憐れの極みである。枯れることの限度まで徹底的に枯れ尽くすが、それを「調子に乗つてやりすぎ」と擬人化して滑稽に。